

黒松内町
まち・ひと・しごとと創生
総合戦略
【第2期】



2020年（令和2年）3月
北海道黒松内町

目 次

1 総合戦略（第2期）の概要

- (1) 策定に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 戦略期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 将来の目標人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (4) 総合戦略の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (5) 国の総合戦略と黒松内町総合計画、総合戦略との関係・・・・・・・・ 3

2 3つの戦略プラン（基本目標）

戦略プランⅠ 働きたくなるまちをつくる
～ブナ里ウェルフェアプロジェクト・・・・・・・・ 4

戦略プランⅡ 暮らしたくなるまちをつくる
～ブナ里ウォーカーブルタウンプロジェクト・・・ 6

戦略プランⅢ 訪れたくなるまちをつくる
～ブナ里ビレッジプライドプロジェクト・・・・ 8

1 総合戦略（第2期）の概要

（1）策定に当たって

2016年（平成28年）3月に策定した「第1期黒松内町総合戦略」は、4つの基本目標と7つの重点事業で構成され、それぞれに数値目標と重要業績評価指標（KPI）を設定し、様々な施策に取り組んできました。

少子高齢化が進行する中で、人口の減少を最小限に抑えながら、地域の活力を維持していくためには、第1期総合戦略の枠組みを継承しつつ、新たな視点を取り入れながら必要な施策を展開し、戦略的にまちづくりを進めていく必要があります。

（2）戦略期間

2020年度（令和2年度）から2024年度（令和6年度）までの5年間

（3）将来の目標人口

国立社会保障・人口問題研究所では、2045年（令和27年）の本町の人口を1,762人と推計していますが、様々な施策に取組み、2,048人を目指します。

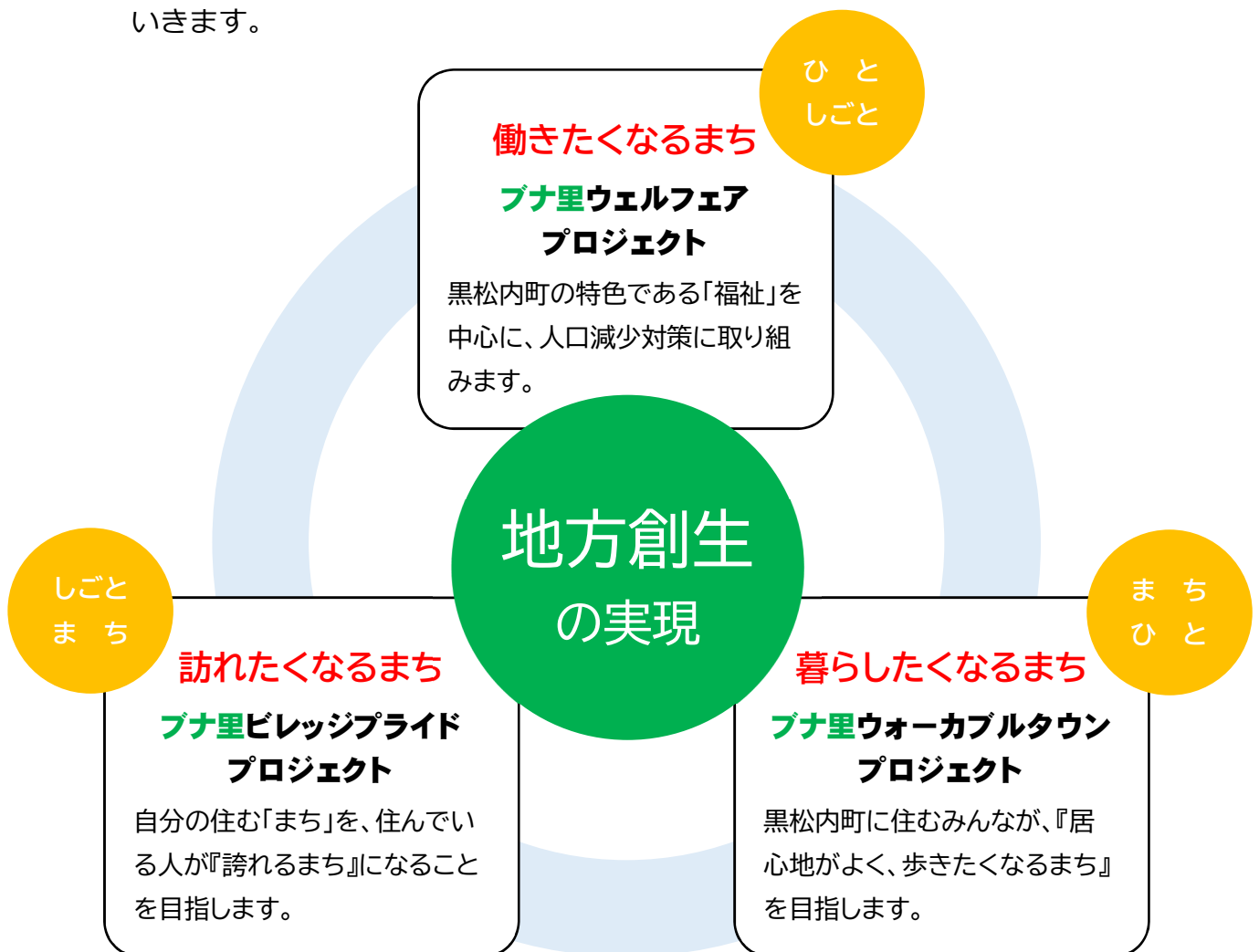
表 将来人口の推計値（単位：人）

区 分		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
（目標値） 町独自 推計	総人口	2,799	2,611	2,447	2,301	2,175	2,048
	合計特殊 出生率	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40	1.40
（参考） 社人研	総人口	2,805	2,562	2,345	2,140	1,952	1,762
	合計特殊 出生率	1.50	1.49	1.51	1.50	1.50	1.50

(4) 総合戦略の構成

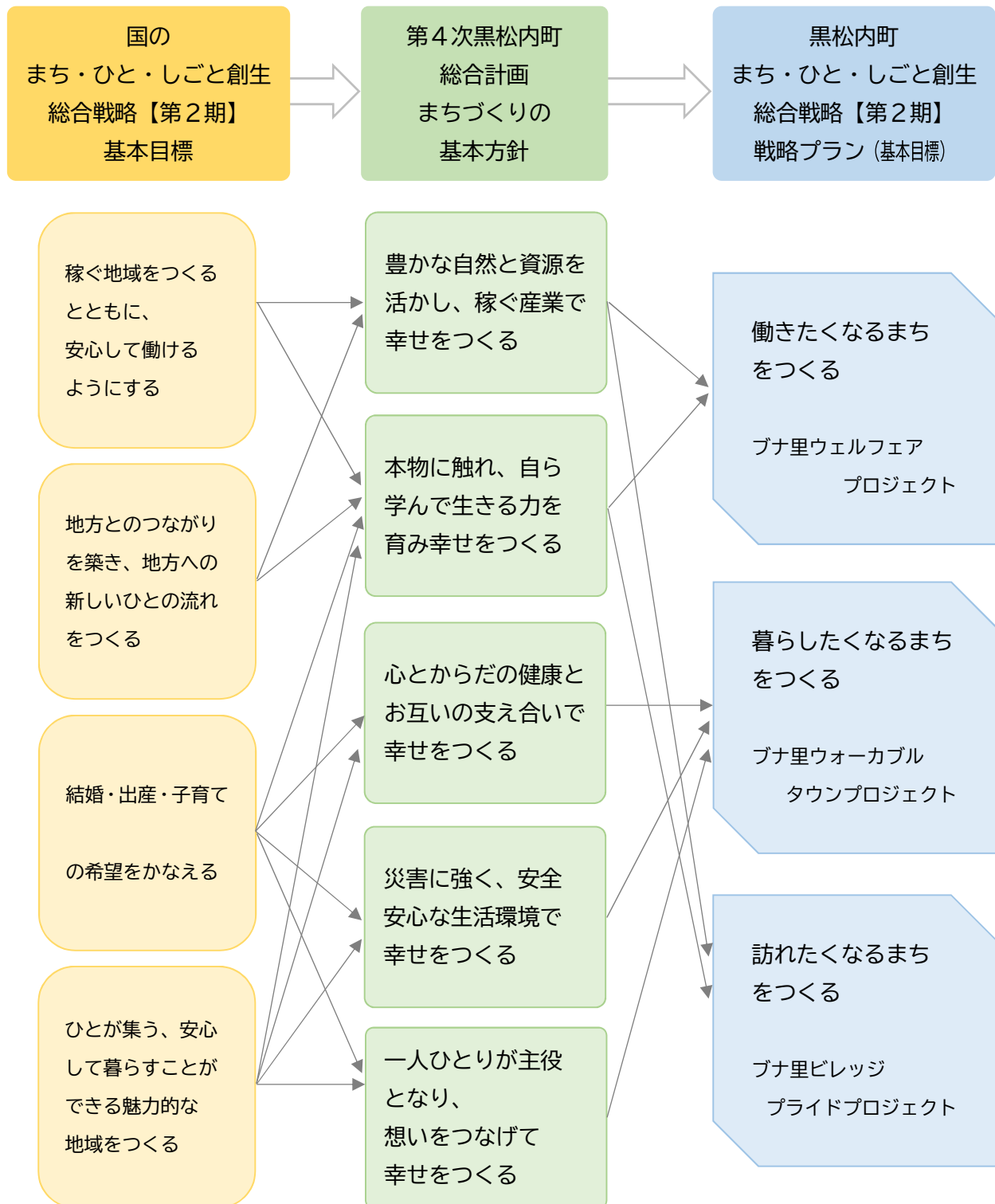
2020年（令和2年）から2029年（令和11年）までを計画期間とする「第4次黒松内町総合計画」では、本町が目指す将来の姿を明らかにし、その姿を実現するための方向性を示しました。第4次総合計画前期基本計画では分野横断的、戦略的かつ重点的に取り組むべき施策を3本の重点プロジェクトとして位置付けました。

第2期総合戦略では、この重点プロジェクトを基本に、国が「まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）」で目指す『活力ある地域社会』の実現と『東京圏への一極集中』の是正に向け、本町においても人口減少対策、関係人口や稼ぐ地域の創出・拡大といった新たな視点を取り入れた下記の3つの「戦略プラン（基本目標）」を設定し、地方創生の実現に向けて、多角的に取り組んでいきます。



(5) 国の総合戦略と黒松内町総合計画、総合戦略との関係

国の総合戦略における基本目標や黒松内町の最上位計画である黒松内町総合計画におけるまちづくりの基本方針との関係性は下図のとおりです。



2 3つの戦略プラン（基本目標）

戦略プランⅠ 働きたくなるまちをつくる ～ブナ里ウェルフェアプロジェクト

《数 値 目 標》

指 標 名	基準値 令和2年度(2020年度)	戦略目標 令和6年度(2024年度)
福 祉 施 設 の 定 員 数	466人	466人

《基 本 的 方 向》

本町の福祉事業は、半世紀以上に渡り「酪農と福祉のまち」の大きな柱として本町を支えてきました。しかし、人口減少が進む本町で経済を活性化し、地域活力を維持していくためには、これまで以上に地元の産業を支える「担い手」を確保し、経済を循環させると共に、地域でも活躍してもらうことが重要です。

本町で育った子供達が地元産業の担い手として働き続けたいと思えるように、魅力的な働き方や職場づくりへの支援とともに、今後福祉施設を中心に増加が見込まれる外国人労働者が安心して生活ができ、仕事に取り組めるような受入体制が必要です。

そのためには、外国人労働者を本町で生活する地域社会の一員として受け入れ、互いの文化や生活習慣を理解・尊重し、共に生きていく「多文化共生社会」の実現に向けて、取り組んでいく必要があります。

《具 体 的 な 施 策》

(1) 外国人労働者の雇用

本町の主要産業の一つである「福祉」を維持していくためには、福祉施設での安定した従業員の確保が必須です。しかし、日本全体で介護人材が不足し、確保は難しい状況が続いています。そこで、外国人介護人材を積極的に雇用して、黒松内の福祉を維持・発展していきます。また、町民の多様な就労ニーズに対応した仕事のマッチング事業にも取り組みます。

(具体的な事業)

- ・外国人労働者確保のために「外国人介護福祉人材育成支援協議会」などへの加盟
- ・仕事と働き手のマッチング「黒松内ハローワーク」事業の実施

(2) 住まいの確保

町内で働く方のための住宅整備を支援します。また、就職・結婚・出産など人生の新たな一步を踏み出す方々を応援するため、それぞれの希望に沿った住宅の確保ができるように支援します。

(具体的な事業)

- ・共同居住型賃貸住宅（シェアハウス）や世帯向け民間賃貸共同住宅の整備支援、町営住宅のグループホーム化など新たな活用策の検討
- ・自家住宅建築奨励金や自家住宅取得奨励金、自家住宅リフォーム奨励金などの定住支援制度の実施
- ・ささやか暮らしの支援制度に基づく各種生活応援事業の実施
- ・空き家空き地BANK事業の実施

(3) 多文化共生社会の実現

町民と外国人が同じ地域で暮らす地域社会の一員として、また、慣れない異国での暮らしを安心して過ごせるように、積極的に支援します。

(具体的な事業)

- ・町民と外国人の交流サロンなどの開催
- ・日本語教室などの学習支援、日本の文化・風習を学ぶための生活支援

《重要業績評価指標（KPI）》

指 標 名	基準値 平成30年度(2018年度)	戦略目標 令和6年度(2024年度)
外国人労働者の転入者数	—	50人増加
町内従業者数	1,079人	1,100人

戦略プランⅡ

暮らしたくなるまちをつくる

～ブナ里ウォーカーブルタウンプロジェクト

《数 値 目 標》

指 標 名	基準値 平成30年度(2018年度)	戦略目標 令和6年度(2024年度)
町窓口を通じた移住・定住世帯数	1世帯	15世帯

《基 本 的 方 向》

人口減少による地域コミュニティの衰退、災害への対応、地方公共交通の抜本的な見直し、町の財政難など、本町においてもほかの小規模自治体と同様様々な課題を抱えています。これまで進めてきたまちづくりの成果により、「閑静なまち」、「ほかのまちにはない落ち着きのあるまち」といったイメージを持たれています。

そこで、次のまちづくりへの一歩として、「居心地がよく、歩きたくなるまち」を目指します。

決して大きくない徒歩圏内の空間に人と施設を集約し、居心地がいい場所でゆっくり、のんびり幸せに暮らす『ブナ里ウォーカーブルタウンプロジェクト』を推進し、本町への転入者や交流人口を増やし、転出者の減少を目指します。

《具体的な施策》

(1) みんなが幸せに

元気な子供たちの活動はもちろんのこと、大人の生涯学習活動も応援して、子供も大人も高齢者も障がい者も、黒松内町に住むみんなが居心地よく、住みやすいまちを目指します。

(具体的な事業)

- ・生涯学習活動を促進し、町民の利便性を高め、ニーズに対応した「学びと子育て」の多世代交流複合拠点施設の整備
- ・ささやか暮らしの支援制度に基づく各種生活応援事業の実施
- ・空き家空き地BANK事業の実施
- ・町内就業者の住宅環境の改善

(2) みんな集まって、歩いて健康に

市街地内で進む官・民間わずさまざま施設や人が集約する、歩いて暮らせるまちづくりをさらに推進し、『自然と歩きたくなるまちづくり』に取組み、「歩くこと」で町民の健康向上も推進します。

(具体的な事業)

- ・フットパスや森林療法、ノルディックウォーキング、^{けんこう}健幸ポイント事業などの推進
- ・市街地の防災対策・道路等周辺環境の整備
寺の沢川の水害対策・遊歩道・人道橋の整備、屋外公園の整備など

《重要業績評価指標（KPI）》

指 標 名	基準値 平成30年度(2018年度)	戦略目標 令和6年度(2024年度)
個人住宅の新築件数	—	10件
^{けんこう} 健幸ポイント事業参加者数	—	400人

戦略プランⅢ 訪れたいくなるまちをつくる ～ブナ里ビレッジプライドプロジェクト

《数 値 目 標》

指 標 名	基準値 平成30年度(2018年度)	戦略目標 令和6年度(2024年度)
観 光 入 込 客 数	34.0万人	35.0万人

《基 本 的 方 向》

「ブナ北限の里づくり構想」がスタートしてから30年余り。これまで本町では、町民が誇りとする農村景観の創造と、都市と農村の交流を促進する体験型・滞在型のふるさとづくりを目指してきましたが、近年の観光入込客数は年間34万人程度で、宿泊客数も横ばいで推移しています。

これから「観光地域づくり」をさらに推進するためには、基幹産業である農業の活性化や急増するインバウンドの受入体制強化など、観光という枠組みにとらわれず、様々な事業者が連携して、本町オリジナルのここでしか味わえない特産品や地域資源を活用したここでしか体験できないメニューの開発など、「黒松内ブランド」を確立し、自分の住む「まち」を住んでいる人が『誇れるまち』となることが重要です。

《具 体 的 な 施 策》

(1) まちに誇りを

「黒松内ブランド」として様々な事業・モノを統一し、地域全体で売り込む効果的なプロモーションを展開します。

(具体的な事業)

- ・(株)ブナの里振興公社(歌才自然の家・道の駅・温泉)や(一社)黒松内町観光協会、黒松内ぶなの森自然学校と町(トワ・ヴェール・ミニビジターセンター・オートキャンプ場ル・ピック)が観光資源を一体的にPR、協働で積極的な事業を展開
- ・流通体制の確立とともに、パッケージやロゴを統一し「黒松内ブランド」として、地域全体で売り込む効果的なプロモーションを展開

- ・観光に携わる方々のモチベーションを高める取組や事業者間の連携強化を支援し、自らの仕事に誇り持ってもらうことで、担い手を育成・確保

(2) みんなで稼ぐ

新たな特産品を開発して、道の駅などでの販売、ふるさと納税の返礼品での活用など、生産者も製造者も販売者もみんなが恩恵を享受できる「稼ぐ観光」を目指します。

(具体的な事業)

- ・観光交流拠点である「道の駅」の集客機能強化のため、施設の大規模改修実施
- ・栽培や育成手法にこだわった農畜産物、希少な水産資源といった魅力的な潜在資源の付加価値を高め、新たな特産品を開発
- ・日本文化や生活体験など飾らない本町オリジナルの体験メニューを提供

(3) 関係人口の増加

S N Sなどを活用した積極的な情報発信やプロモーション戦略を強化し、黒松内に関心を持つ「黒松内ファン（関係人口）」を増やします。

(具体的な事業)

- ・ふるさと納税寄附者やリピーター、本町出身者などのネットワークを活かしたPR活動『ふるさと応援大使（仮称）』事業の実施
- ・S N Sでの積極的な発信、フォトコンテスト等のイベント開催、民間企業との連携などのプロモーション戦略を実施
- ・企業版ふるさと納税制度などの積極的な活用

《重要業績評価指標（KPI）》

指 標 名	基準値 平成30年度(2018年度)	戦略目標 令和6年度(2024年度)
新規特産品数	—	10品
新規開業者数	—	3件

人と自然が彩る なんか居心地のいいまち くろまつない

黒松内町まち・ひと・しごと創生総合戦略【第2期】

発行 2020年（令和2年）3月

北海道黒松内町

〒048-0192 北海道寿都郡黒松内町字黒松内302番地1

TEL 0136-72-3311 FAX 0136-72-3316

HP : <http://www.kuromatsunai.com/>

企画編集 黒松内町企画環境課